

協働パイロット事業（H28）企画提案書

団体名：認定NPO法人丸子まちづくり協議会

1 事業の名称

放任竹林の竹粉を活用した生ごみ減量化プロジェクト

2 事業の概要（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください）

1 目的

放棄竹林の竹を伐採・粉砕して、これをベースに家庭生ごみの堆肥化を促進し、もって市内の環境保全とごみ減量化を実現する。

2 現状と課題

- ・近年、静岡市では1,177haの農地が耕作放棄され、これが原因となって放棄竹林が増え、景観悪化、住居環境阻害等大きな環境問題となっている。
- ・一方、家庭生ごみは増加の一途をたどっており、家庭系可燃ごみの40%を占めるに至っている。
- ・市では竹を粉にして生ごみと混ぜて堆肥化し、これを有機物として畑へ施用する取組を進めている。
- ・しかしながら、現状では市民に周知されず、竹粉を利用した生ごみの減量化は進んでいない。
- ・そのため、当協議会環境部会では実際に孟宗竹を伐採して竹粉を作り、会員に竹粉利用の生ごみ堆肥化運動を進めている。
- ・取り組み始めて3カ月だが、竹粉と生ごみを混ぜて1カ月もすれば生ごみになることがわかった。
- ・これを常時循環できるしくみが構築されれば、放棄竹林の減少と生ごみの減量化、さらには生ごみ堆肥による農産物生産という一石三鳥というメリットが望まれる。

3 事業内容

(1) 竹林の伐採と竹の粉砕

- ・丸子まちづくり協議会の環境部会員を主体に放棄竹林の伐採と竹の粉砕を行う。
- ・竹は市所有の竹粉砕機を使用して年間3回程度粉砕する。竹粉にして1トン/回を予定。

(2) 竹粉の利活用

- ・粉砕した竹粉はまちづくり協議会メンバー及び一般市民に提供し、生ごみの堆肥化を勧める。
- ・完成した堆肥は各家庭の庭木あるいは家庭菜園等に施用するが、処分困難な場合は近隣農家に配布する。

(3) 生ごみ堆肥化の実証及び周知

- ・生ごみ堆肥化の実際を多くの会員に体験してもらい、口コミで市民への周知を図るが、合わせてイベント等を通じて一般市民に対し竹粉を無料配布する。
- ・この循環システムが構築されることでごみ減量化が実現できるとともに、市民の環境保全への動機付けも期待できる。

3 事業効果

(1) 放棄竹林伐採による環境保全及び景観維持

(2) 竹粉の利用による生ごみの減量化

(3) 生ごみ堆肥施用による有機農業の推進

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

1 認定NPO法人丸子まちづくり協議会環境部会の役割

- ・放任竹林の伐採及び竹粉碎により、環境保全及び景観維持を進める。
- ・「放任竹林の竹粉を活用した生ごみ減量プロジェクト」を通じて竹粉利活用の実際を市民に伝え、環境保全への動機づけを行う。

2 静岡市の役割

- ・竹林伐採後の竹粉碎に関し、粉碎機を貸し出すとともに安全な粉碎作業の指導を行う。
- ・市は、当協議会の活動を広報し、市民への周知を行う。

3 課題と将来方向

- ・このプロジェクトは環境保全循環システムのモデルになり得るが、市内に存在する多くの放棄竹林全体の解消には至らない。
- ・また、家庭系ごみの40%を占める生ごみの減量化にあっても多くの市民の意識や各家庭の具体的な堆肥化作業が伴わなければ実現は不可能。
- ・さらに竹の切り出しに多くの労力を必要とすること、竹粉碎時にかなりの騒音が出るため、住居近くでは作業ができないことなど多くの課題も存在する。
- ・そのため、市（行政）が住居から離れた場所に大型の竹粉碎機を設置し、竹の持ち込みによる粉碎作業が必要である。
- ・市内のNPO法人または個人が伐採した竹を持ち込み、業者による竹粉碎の後市民に竹粉を配布して堆肥化を推進する。
- ・これらのコストは基本的に行政（市民の税金）が負担するが、これによるごみ焼却熱源の削減や環境保全による暮らしやすい環境づくりに大きなメリットをもたらす。加えて放棄竹林を解消することによりイノシシ等獣害の削減にもつながる。

団体名：認定NPO法人丸子まちづくり協議会

4 事業計画・実施スケジュール

年月	事業内容	活動人員	成果
28年9月	竹伐採、粉碎	15人	竹粉1トン作製
28年10月	丸子カフェ祭りで竹粉配布	15人	200人に1kg/人を配布
28年12月	竹伐採、粉碎	15人	竹粉1トン作製
29年1月	竹伐採、粉碎	15人	竹粉1トン作製
29年2月	丸子宿場祭りで竹粉配布	15人	300人に1kg/人を配布
随時	竹粉活用による生ごみ減量をPR		
合計		延75人	

団体名：認定NPO法人丸子まちづくり協議会

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

1 実施体制				
	担当業務	氏名	団体役職	備考
1	全体統括	松川和夫	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会部会長	約 40 年農業に従事、農協役員等歴任、地域のリーダー
2	事業進捗管理	大原正和	NPO 丸子まちづくり協議会副理事長	約 40 年県職員として農業行政に従事、退職後農業
3	会計	鈴木須美子	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会副部会長	現役引退後、ボランティアとして自治会連合会会計等役職を歴任
4	渉外	中西勝巳	NPO 丸子まちづくり協議会環境部会員	約 40 年国鉄職員として勤務、退職後農業に従事
5	スタッフ	11 人	作業班	殆どの者が現役引退後、地域活動のボランティアとして環境づくりに参加

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

1 プロジェクトの実績及び効果

認定NPO法人丸子まちづくり協議会は「自分たちでできることは自分たちで実行する」を合言葉に防災、防犯、福祉、観光、環境など9つの部会で丸子地域の活性化を目指している団体。環境部会はそのひとつであり、このプロジェクトはすでにスタートしている。これを行政との協働活動に発展させることでさらに多くの効果が期待できる。

2 放棄竹林の解消

放棄竹林は社会問題化しているが、一部は農家の問題でもある。農家個々は放棄竹林を見て他人に迷惑をかけているなど感じながらも、高齢化で何もできないジレンマを抱えている。我々農業に関わる者として竹林の管理についてはある程度の専門的な知識もあることから、責任をもって放棄竹林の解消に取り組むつもりである。

3 生ごみの減量化

自治会において家庭ごみの収集状況を見ると、生ごみの多さに驚く。これは日本の食品ロス（年間約500～800万トン）が、世界全体の食料援助量の約2倍という数字と結びつく。人間にとって大切な食料を食べ残さないよう努力すべきではあるが、食品産業の振興と言う観点からは相反するもの。

食べ残しを減らして家庭から排出される生ごみの減量化を進めることが本来の姿ではあるが、今回のプロジェクトは廃棄物処理場への生ごみの持ち込みを減量化しようとするものであり、堆肥化が不可欠。堆肥化は有効な手段と考える。

4 環境問題に対する意識

今年の2月、環境部会で作製した竹粉による生ごみ堆肥化の実物を見せながら、100袋ばかりの竹粉を無料で配布したところ、すぐになくなってしまった。熱心に堆肥づくりの方法についての問い合わせもあった。今後、こうした活動を続けることによって我々環境部会のメンバーはもとより関係者または一般市民に対する「食と環境」という一見かけ離れている事象に意識を向けさせることができるものと考えられる。

協働パイロット事業 (H28) 見積書

団体名：認定NPO法人丸子まちづくり協議会

企画のタイトル：放任竹林の竹粉を活用した生ごみ減量化プロジェクト

項目	金額	説明
伐採作業等労働報酬	180,000 円	15 人×3 回×4,000 円
PR用チラシ作製費	50,000 円	5,000 部
竹林伐採なた、のこぎり	75,000 円	5,000 円×15 人
事務管理費	50,000 円	通信費用、粉碎機運搬、会議資料等
小計 A	355,000 円	
消費税 B = A × 0.08	28,400 円	
合計 A + B	383,400 円	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な使途